

広報 伊方町

発行所
伊方町
愛媛県西宇和郡伊方町湊浦
〒796-03 ☎伊方局8-0211

編集課
印刷所
豊豫社
八幡浜市松柏 ☎22-0144

うちの おがあさん

母親名 園児名
(部落=年齢)



小島真理子さん 大作くん (大成=5歳)



笹田ちづるさん 充紀くん (加周=5歳)



古田ミツさん 保津美ちゃん (田之浦=5歳)



山岡美代さん 真吾くん (田之浦=6歳)



堀江春江さん 準人くん (西=5歳)



辻 晶子さん 洋子ちゃん (奥=6歳)



菊池琴恵さん 光恵ちゃん (西=6歳)



小島恵子さん 香奈ちゃん (大成=5歳)



河野さし子さん 理香ちゃん (豊之浦=5歳)



中田綾子さん 敏寛くん (豊之浦=5歳)



菊池正子さん 忠助くん (須賀=5歳)



坪内春江さん 隆典くん (畑=5歳)



田中君江さん 孝明くん (龜浦=6歳)



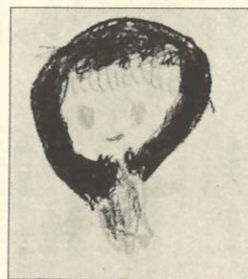
清水五三子さん 泰三くん (川永田=5歳)



稲月律子さん 千恵ちゃん (川永田=6歳)



泉留美子さん 里香ちゃん (川永田=6歳)



河野洋子さん 優子ちゃん (豊之浦=5歳)



米沢勝恵さん 真也くん (仁田之浜=6歳)



岡元 栄さん 孝恵ちゃん (中浦=6歳)



泉みちよさん さおりちゃん (大浜=5歳)



袋口玉美さん ミエちゃん (大浜=6歳)



中藤ひろみさん ふみちゃん (大浜=6歳)



伊藤千寿子さん 早苗ちゃん (湊浦=5歳)



吉本妙子さん 誠くん (小中浦=6歳)



野崎節子さん 友香理ちゃん (湊浦=6歳)



木戸キヨミさん あさみちゃん (河内=6歳)



山本苗恵さん 耕平くん (湊浦=6歳)



水がわたしたちの暮らしに欠かせない大切な、生命の源である。といまさらいうまでもありません。水道の水が止まったら、家庭で、病院で、工場で—わたしたちの生活はいったいどこで立ち往生します。



林満繁氏(初代長)春の叙勲に

天皇誕生日の四月二十九日、恒例の五十九年春の叙勲受章者が発表され、本町関係では湊浦の林満繁氏(元町長七十四歳)が勲五等瑞宝章に輝きました。伝達式は、五月七日松山市の二期八年間伊方町長、さらに三十年四月から三十四年三月まで、町見村との合併により誕生した伊方町の初代町長を務めました。その間、村・町財政の健全運営、教育の振興と小中学校施設の整備充実、農業の基盤整備などに尽力。今日の伊方町発展の基礎づくりに貢献されました。林氏は、戦後間もない二十二年四月から三十年三月まで

地下水も限界

古くから水資源に苦んできた本町。半島特有の地形は平地が少なく、低い山がすぐ海に狭い大きな河川にも恵まれていません。したがって現在の町水道の水源は、大部分が地下水に頼っています。これも現在の揚水量が限界。渇水期や夏期の使用量が増加する時期には一部塩分が混じったりすることもあり、飲料水に使えなくなることが現状です。

水道週間

だんの生活ではまだまだ無駄に水を使っている面が少なくありません。ちよと、健康なときに健康の有り難さを意識しないのと同じように、六月一日から七日までの週間は「水道週間」です。この機会に、いま一度、暮らしの中の水の大切さをみながら見直しましょう。

暮らしに欠かせない水

一人一日平均バケツ20杯分にも

当たり前ですが、人間は水なしには生きられません。水さえ飲めれば、二十日や三十日は食物なしでも生命は保てますが、一滴も水を飲まないと、せいぜい十日間しか生きられないといわれます。では、このような大切な水を、いま、わたしたちは、家庭でどのくらい使っているかご存じですか。五十八年度の町水道の平均配水量が一日二千六百二十六トン(下表)。給水人口が七千人です。一人一日当たりのみずと三百七十四リットル(左表)で、十八リットル入りバケツに二十杯以上にもなります。これを、さらに「リトル」の大びんに換算しますと約五百九十本分です。本町では、五十三年度の一人一日当たりの使用量が二百九リットル、ビールびん約三百三十本分ですから、わずかに相当します。

(町内の施設) 上水道と簡易水道

水はタダ...昔のこと

町水道は施設の規模などにより上水道、簡易水道と区別して呼ばれています。施設状況は下表のとおりです。伊方上水道は大浜から川水田までの広い範囲で、昭和三十六年に計画給水人口五千五百人を見込んで、五十五年間に有楽簡水の施設整備や給水区域の拡張を行ったといえ、給水人口にあわせて水量は二倍近い伸びを見せています。四・五年先には東字和郡の野村ダムから導水する国営南子用水事業が完成の予定です。この受け入れが開始すれば水量の問題は解決できる見通しですが、水は有料で莫大な施設費用が必要で、施設にお金がかかれば当然水道料金にはな返ってくることにあります。今年度、この南子用水受け入れに伴

町水道課 給水人口と配水量

年度末給水人口	一日平均配水量	
	上水道	簡易水道
53年度	6,806人	840トン
54年度	6,736人	874トン
56年度	6,786人	1,115トン
57年度	6,871人	1,050トン
57年度	6,981人	1,139トン
58年度	7,007人	1,259トン

町水道施設状況 昭和59年4月現在

水道事業名	給水区域	給水人口	一人当り平均配水量	一人一日当り平均配水量
伊方上水	川水田・中浦・小中浦・湊浦・河内・仁田之浜・中之浜・大浜	3,718人	1,259ℓ	338ℓ
有楽簡水	伊方越・龜浦・九町越	632人	772ℓ	1,221ℓ
九町簡水	豊之浦・奥・向・畑・須賀・久保・西	1,781人	447ℓ	250ℓ
二見簡水	二見	158人	37ℓ	234ℓ
龜ヶ池簡水	鳥津・大成・古屋敷・加周・田之浦	718人	111ℓ	154ℓ
計		7,007人	2,626ℓ	374ℓ

食生活改善

近年、生活水準の向上とともに食生活も豊かになってきたように思われていますが、どうも、そうとはばかりはいえないようです。幼児期の食事調査や健診時の食習慣調査からも、栄養の取りかたがアンバランスの傾向が見られます。町では五十四年から「健康づくりは食生活改善から」を目的に、食生活改善推進員制度を設けました。推進員は栄養学修習生などで、活動に意欲的な方を各部から選出していきたいと、町長から委嘱されています。任期は二年です。すでに制度が設けられてから四年半になりますので推進員の役割は存じのこ

りかどうの要素を添えてプレゼントしたそうです。お子さんの描いた似顔絵のできばえはいかかでしたか。今月は、このすばらしい絵の中から年長児の二十七点を紹介してみました。

とも思います。主な仕事は、研修会で修得したことを部落内やグループに伝達すること、町の行う食生活改善に関する事業に協力していただくことです。四月に三代目の推進員が決まりましたので次に紹介します。

(食生活改善推進員)
伊方地区：豆恵子(大浜) 門田満喜子(中之浜) 松本 睦(仁田之浜) 安部 恵美子(河内) 中田 幸徳本千枝(守田良子) 湊浦 泉三枝子(小中浦) 井上安美(中浦) 篠沢真砂子(山本芳枝) 川水田 神野フキ子(伊方越) 山口君江(龜浦) 町見地区：三根生千恵(奥) 堀内人美(向) 得能利子(畑) 池田リツミ(須賀) 松田金栄(久保) 高田英子(西) 高野清子(二見) 鳥津 方子(加周) 山岡サツ子(田之浦) 池田弘子(古屋敷) 小島恵子(大成) 鳥津サトエ(鳥津)

— 敬称略 —

健康の窓

健康の窓は、皆さんが開けなければなりません。保健センターでは、そのお手伝いを考えています。

表紙の言葉

五月の第一日曜日、今年は十三日が「母の日」でした。町内七つの保育所では、園児が描いた似顔絵に、あ



民話と伝説

原文/伊方町誌 補作/岡村 豊
挿絵/宇都宮利久(前伊方小教頭)

寛文検地(二六六〜一六七三年)では、村高百七十一石五斗四升五合六勺で、伊方

二見騒動と「おきんさん」の恋

二見浦

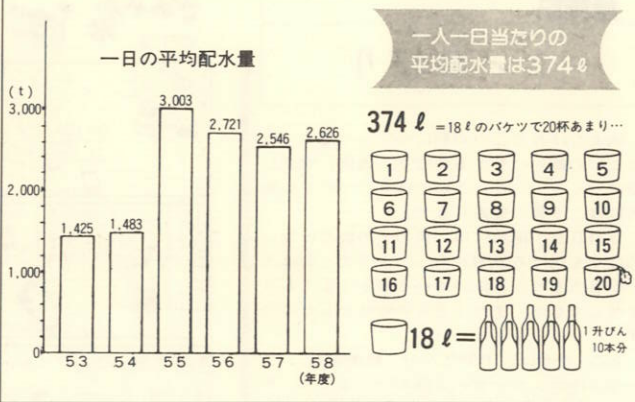
い足跡を話あけるけん聞いてやんなははいや。
当時の大字「二見浦」は、二見本浦と加浦の二浦じやつて、農業と漁業で暮らしていたそうすらい。
寛文検地(二六六〜一六七三年)では、村高百七十一石五斗四升五合六勺で、伊方漁獲物の没収をするや、



こんな話を知ったんはなるかな。文政十三年(一八三〇年)の春のことすらい。伊方浦騒動と同じころに起った二見騒動の話すらい。
これはな、追い詰められた百姓たちが身を盾にして起こした一揆のことすらい。二見浦の百姓が歩んできた厳し

別録」にも書いてあるそうすらい。
ところが、この騒動の裏に秘められた悲恋物語が伝説として残っております。
この道(国道一九七号線)を西へ歩いて行きましたら、加周の手前に金次郎屋(だき)という高い切り岸に

また、金次郎屋にはもう一説あって、金次郎さんという人がおつて、山へ柴刈りに行って、この崖から落ちて死んだので、「金次郎屋」と呼ぶようになったともいいますらしいな。
二見騒動も、天保十一年宇和島藩主の御慶事のおり、九町浦天徳寺の大教願書によつて、所替えのものは十一年ぶりに故郷の土を踏むことができたという話すらい。



一人一日当たりの平均配水量は374ℓ



水の上手な使いかた

わたしたちの暮らしの中で、ちよつと注意するだけで水をずいぶん節約することができます。
(洗濯するとき)
あなたの家庭では、水を出しっぱなしにして歯を磨いている人はいませんか。これだと一分間で十三リットルもの水をムダに流していることになります。一月では、一般家庭用の浴槽で二杯分にもな

また、洗い終わったらそのまますすぐのではなく、一度脱水機を洗剤落としからすすいでください。これだけでも、
すすぎの水二十リットル、石鹸水一杯分が節約できます。
自動車一台洗車するのに要する水量は、およそ五百リットルといわれています。月一回洗車するとして、一台で年間六トン。本町の乗用車総数約一千台では、六千トンの水を消費することになります。
飲料水をはじめ炊事・洗たく用など人間が生きるための最小限度の水の量は、一日一人平均三リットルあまり。一年間でおよそ一トン。これのみますと、車一台の洗車に要する水量は人間一人の年間分の必要水量に匹敵することになるので、車を洗うときは水道のホースを出しっぱなしにせず、バケツにくんで使うように心がけたいものです。



ナイター開幕

30チームがソフトボールに熱戦

町見中学校と伊方中学校のグラウンドでは、ナイターソフトボールリーグ戦が始まりました。
町見地区は九チームが参加して休協主催で四月二十七日に、伊方地区は二十一チームが参加してソフトボール協会主催で五月十日に開幕。午後七時ころから、仕事を終え、そわいのユニホームを着た選手が集まり熱戦が繰り広げられています。
優勝の栄冠はどのチームに。出場チーム名と五月二十三日現在の戦跡は次のとおりです。○：勝 ●：負

奥	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
向	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
畑	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
須	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
久	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
西	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
二見	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
加周	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム
田	子	一	ム	ム	ム	ム	ム	ム

伊方建設	●●
伊方ドラゴンズ	○○○
伊方ナズマ	●●
伊方キャッツ	○○○
白虎	●●
レッドスターズ	●●
若業クラブ	●●

四国計測	●●●●
チャレンジャーズ	●●●●
日本建設	○○○
ビッグパワーズ	○○○
フィッシュヤーズ	●●●●
マックインズ	○○○
ユービ	●●●●

牛若丸	●●
大浜O'B	●●●●
キャンブラーズ	●●●●
仁田之浜ボバイ	●●●●
パイレーツ	○○○
ファイバーズ	○○○
ブラックデビル	●●●●

歳時記

こいのぼり

紙または布でこいの形につくった端午(たんご)の節句にたてるのぼり。通例、吹流し型につくる——と、こいのぼりについて広辞苑にはこう書いてあります。

5月5日の節句には、男の子の数だけこいのぼりを掲げる風習があったようで、昔はこいが3匹も4匹も泳いでいる家が少なくありませんでした。子どもさんの時代だったので。

ところが今は、子供2人が「標準家庭」。こいも1匹か、せいぜい2匹がいいところ。それでは寂しからうというわけで、最近では、赤・黒・青の3匹セットが流行しています。なかには黄色・緑色など「突然変異」のような色のもを加えた5匹セットというのも見かけます。また、高知県のあるところでは「かつおのぼり」が泳いでいるとか。こいも世につれ、ということでしょうか。

材料も、こいそのものはナイロン地、さおは、軽金属製のものが出回っているようですが、こいの絵柄は昔とあまり変わっていません。

サイズのほうは、都市部で団地サイズの1メートルから2メートルどまりのもの、郡部では5メートル以上のものに人気があるそうです。

中国では、竜門(黄河の上流にある)を登ることのできたこいは竜になれるといわれ、立身出世のシンボルとされています。日本では、江戸中期から今日のようなこいのぼりを飾る風習が出てきたようです。

近ごろは、立身出世よりも自分の趣味に合った暮らしを望むようですが、5月5日には、やっぱり立身出世のシンボルを飾りたいというのが親心というものでしょうか。



さかやか君 赤村宗



全国各地から差し出される郵便物は年間百五十四億通。伊方・町見郵便局で扱ったものだけでも年間三十三万通。配達したものは七十二万通あり。

郵便局には、このような事故をすぐに調査するため、郵便物事故申告調査制度を設けています。出稼に行つたが最初の条件などを守らなかったら、労働者保護事業を実施。その一つとして、就労をめぐる諸問題の解決促進のため「地域相談指導員」を設置しています。

本町では、この制度が設けられた四十七年十二月から十六年間にわたり相談指導員としてご尽力いただいた小中浦の渡辺定幸さんに変わつて、四月一日付で上田益男さん(大浜)が新たに



手紙が届かないとき

近くの郵便局まで申し出を

まわりもありました。郵便局では、これら一通一通の郵便物を皆さんの家庭まで、間違いないでお届けするために最善の注意を払っています。郵便物が届かない、中身が足りない、届くのが遅れている、といった事故が起こることがあります。郵便局には、このような事故をすぐに調査するため、郵便物事故申告調査制度を設けています。出稼に行つたが最初の条件などを守らなかったら、労働者保護事業を実施。その一つとして、就労をめぐる諸問題の解決促進のため「地域相談指導員」を設置しています。

上田さん(大)が担当に

出稼労働者の地域相談員

の扱いの手紙、はがき、小包も申し出により調査して回答します。郵便局では、直ちに申し出の内容を調査するとともに事故の原因を明らかにして、再びこのような事故が起こらないように努力したいと思っています。お気軽に申し出てください。電話や手紙で申し出られても結構です。伊方郵便局(☎八〇〇四〇)または町見郵便局(☎九〇九〇)までご連絡ください。

町内の交通事故

現在	5月1日	22件
発生件数	(4月...)	28件
負傷者数	(4月...)	10人
	(4月...)	2人

四月二十三日から七月三十一日までの百日間「死亡事故ゼロ」脱出県民続ける運動が実施されています。

この運動は、本県の交通事故による死者が四月十三日で昨年より十八人も増加、増加数で全県ワースト一位、増加率でもワースト二位という不名誉な記録となったためです。

交通ルールを守り、事故防止に二協力ください。

伊方・町見駐在所

おわび

先月号一面「高接ぎ作業たけなわの記事中、「九町の森元さんのみかん園で、太田ボンカンへの高接ぎ作業が行われていました」となっていました。「津波ボンカン」の誤りにつき、おわびして訂正いたしました。

【お礼】

東大阪市昭和町六番一八号にお住いの田上隆一さん(仁田之浜出身)から一万円。

千葉県我孫子市栄三三「一にお住いの橋 巧さん(栗田出身)から五千円。

大阪府摂津市東別府一丁目七二〇にお住いの上田吉次さん(河内出身)から一万円。

青森県弘前市北園二丁目四七にお住いの吉永芳史さん(前南大学教員)から一万円。

それぞれ広報編集費用にご寄付いただきました。紙上から厚くお礼申し上げます。

こちら編集室 五月十四日、沖繩地方を襲った大雨入り梅雨入り宣言されました。沖繩地方は平年より三日、昨年より五日遅い梅雨入りです。県下の梅雨入りは昨年六月十二日、梅雨明けは七月二十一日でした。松山地方気象台によりますと、今年の梅雨入りは平年(六月五日)より遅れそう、後半には大雨の恐れ、梅雨明けも遅れそうだとか。昨年は梅雨の降水量も少なく、八月から九月にかけて記録的なカラカラ天気が続き、適度の雨はほしいものの、大雨はほしくないですね。虫の多い話でしょうか。

昭和59年4月1日現在 人口 8,603人 (男4,146人(-41人) (-82人) 女4,457人(-41人) 世帯数2,557戸(-4戸)

えんむすび 昭和59年3月1日 3月31日

お誕生おめでとう よい子に育ってください 昭和59年3月1日 3月11日

おくやみ 昭和59年3月1日 3月31日